



発行所

一般社団法人 長野県保育連盟

長野市若里七丁目1番7号

長野県社会福祉

総合センター内

TEL026(228)4415

FAX026(228)9443

題字 海野会長

いあこやい

子どもたちが健やかに育まれ

育つていく社会を目指して

長野県 県民文化部 こども・家庭課長 草間 康 晴



い申し上げます。

また、一般社団法人長野県保育連盟の皆様方には、日頃から子どもたちの保育に、たいへん熱心にお取り組みいただくとともに、本県の保育行政の推進に格別のご尽力をいただいておりますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

子どもは未来を担う社会の宝です。しかし、核家族化や都市化の進

まずはじめに、一般

社団法人長

野県保育連

盟の設立を

心からお祝

い申し上げます。

また、一般社団法人長野県保育連

盟の皆様方には、日頃から子どもた

ちの保育に、たいへん熱心にお取り

組みいただくとともに、本県の保育

行政の推進に格別のご尽力をいただ

いておりますことに、心から敬意と

感謝を申し上げます。

子どもは未来を担う社会の宝で

す。しかし、核家族化や都市化の進

行により、子育てが家族だけの問題

となりがちで、子どもを産み育

てることの負担や子どもが健やかに

育つことへの不安が増大し、生まれ

くる子どもの数は減り続けています。

このため、子どもを持ち、子どもを育てることに喜びや励みを感じることができると、生まれてきた全ての子どもたちが健やかに育まれ育つていく社会をめざし、子育てに伴う経済的負担の軽減、子育てと仕事の両立支援、子育ての孤立化の防止及び様々な困難を抱える子どもや家庭への支援を柱とする「長野県子育て支援戦略」に基づき、引き続き充実を図ってまいります。

昨年度は、第三子以降の子に対す

る保育料の軽減支援や、子どもの医療費助成の対象拡大を行ったほか、新たに設置した「長野県子ども支援センター」において、いじめや子育ての悩みなど、幅広く子どもや保護者等からの相談への対応に当たっているところです。

本年度は、新たに子育て支援員認定研修に取り組み、ファミリー・サポート・センターや一時預かり保育など、地域におけるきめ細かな子育てを支援いたします。

また、保育士養成施設での修学や潜在保育士の再就職を支援するための返還免除型貸付金制度により、保育士の確保を図ります。

さて、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていく「子ども・子育て支援新制度」が、昨年度、本格実施となりました。

新制度の概要といたしまして、保育所と幼稚園の機能や特徴を併せ持ち、地域の子育て支援も行う「認定こども園」の普及や、子どもが減少している市町村など地域の様々な状況に合わせて三歳未満児の保育の場を確保する「地域型保育」の創設といった量の拡充がごございます。また、三歳児の職員配置の改善、処遇

改善等加算による職員給与の改善、研修機会の充実といった質の向上につきましては、保育士の就業継続支援の推進のためにも、改善要望の強い勤務環境改善への対応の検討、保育士のキャリアアップに対応した研修体系の再構築、さらなる処遇改善の実施などの取組みが必要であると考えております。

保育所は地域で最も身近な子育て支援機関であり、保育の専門機関として、また地域の子育て支援拠点として、その役割はたいへん大きなものがあります。

保育所職員の皆様方には、保育所保育指針等に基づいて、保育所を利用する子どもたち一人ひとりに、その個性や発達過程に応じた質の高い保育を提供するとともに、子どもの保護者や地域の子育て家庭に対し積極的に関わっていただき、支援していただくことを期待申し上げます。

最後になりますが、一般社団法人長野県保育連盟の今後ますますの御発展をお祈り申し上げます。あいさつとさせていただきます。

「長野県子ども貧困対策推進計画」について

長野県県民文化部こども・家庭課

長野県保育連盟の皆様方には、日頃から子どもたちの保育にたいへん熱心にお取り組みいただくとともに、本県の保育行政の推進に格別のご尽力をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

今回は、本年三月に策定いたしました「長野県子どもの貧困対策推進計画」について御説明いたします。

◆ 経 過

平成二十六年一月に施行となった、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」において、都道府県計画の策定が努力義務となりました。

平成二十六年七月に公表となった、「平成二十五国民生活基礎調査」の結果において、子どもの貧困率が十六・三％、大人が一人の世帯の貧困率が五十四・六％であることが明らかにになりました。

平成二十七年三月に改訂した、「ながの子ども・子育て応援総合計画」において、子どもの貧困対策の施策の方向性を示し、法律に基づく長野県の計画としました。

◆ 計画の特徴

「ながの子ども・子育て応援総合計

画」を基として、さらに詳細に実態を把握し、子どもの貧困対策に特化した計画として策定しました。

詳細な実態把握のため、「長野県ひとり親家庭実態調査」、「長野県子どもの声アンケート」を実施し、調査結果から、課題やニーズを把握し、取組の方向性を整理し、「あるべき姿」を示して施策の総合的な展開を記載しています。

計画期間は「ながの子ども・子育て応援総合計画」に合わせて平成二十九年度までの二年間とし、平成二十九年度末を目途に改定します。

◆ 課題の整理

調査結果等から明らかにになった、子どもの貧困による主要な課題を三つの観点から整理しました。

○課題一

家庭の養育環境が充分ではない

○課題二

多様な教育資源が選択できない

○課題三

要支援家庭の孤立

◆ 基本目標

「生まれ育った環境にかかわらずすべての子どもが夢と希望を持って成長する長野県を目指して」

◆ 基本目標からみた「あるべき姿」

○あるべき姿Ⅰ

すべての子どもが安心して過ごすことができる

○あるべき姿Ⅱ

すべての子どもが学びたいことを学ぶことができる

○あるべき姿Ⅲ

すべての子どもが多様な自立を現現できる

◆ 基本目標に向けた重点的な取組課題に対して重点的に取り組む事項を記載しています。

○長野県の地域資源を活用した家庭養育の補完の仕組みづくり

「子どもの居場所づくりの促進」

「家庭的養護の推進」

「保護者の自立・就労支援等」

○切れ目ない教育費の負担軽減等による子どもの希望を実現できる学びの支援

「学校の授業料等に対する負担軽減策」

「学校等における多様な未来を切り拓く教育の実施」

「自らの学びへの支援」

○早期の課題解決に向けたアウトリーチ型支援による要支援家庭の孤立化の防止

「家庭への支援機能の強化」

県・市町村・民間企業・NPO等により「長野県将来世代応援県民会

議」(仮称)を組織し、長野県の未来を担う子どもたちが夢と希望を持って自立していくために、オール信州で子どもや家庭を支える運動を展開してまいりますので、貴連盟の皆様方にも引き続き御支援をいただきますよう、お願いいたします。



◎水飲み場に水が溜まり、勢いよく排水溝へ水が入る様子を見て…
年少児K「うわすすごい!ごくごく飲んどるじゃ〜」

◎辛いカレーの話になり…
保育士「カレーがからくて、口から火が出るかと思った。」
年少児Y「じゃあ、Yが消防車呼んでやるで!」

◎ふきの煮物が給食に出る日、大きなふきのスジむきをした年長児
「アッ、ふきのとうのにおいがする!!」
「さけるチーズみたいだね」
「あー、糸が出てきた!!」
「でも糸は繭からだよ」
(カイコの繭の事なんでしょうね。物知り!)

(二社) 長野県保育連盟

平成二十八年通常総会報告

平成28年度通常総会は、5月23日、長野市において開催されました。

海野会長のあいさつ、長野県の草間こども・家庭課長からのご祝辞を頂いた後、海野会長の進行により議事に入りました。提案した次の議案はすべて全会一致で承認・可決されたことをご報告いたします。

第一号議案 平成27年度長野県保育園連盟事業報告

第二号議案 平成27年度長野県保育園連盟会計の収支決算報告

監 査 報 告

第三号議案 平成27年度決算確定に伴う平成28年度収支予算総額の変更について

第四号議案 理事の選任について

報告 一 副会長の選定について

海野会長あいさつ

本日はお忙しい中、平成28年度一般社団法人長野県保育園連盟通常総会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

保育につきまして最近では、環境を整えて、その環境の中で子どもたちがどういう遊びをし、どういうことを発見し、どういうことを経験していくかということが大切であるということが盛んに言われております。今までは設定保育ということと、保育士さんが用意をした流れをもって、きつとこうなるだろうというところへ導いていく保育が中心でありましたが、現在は環境を整えること

によって、子どもたちが自らの力で、そこでどんな保育を展開していくかということを大切にしていきたいと思います。

同じように制度というものも変わってまいりましたので、我々の保育業界のあり方も、制度という環境に合わせてその中でそれぞれが自発的にいろいろな取り組みをしていかなければならないのではないかと考えております。

今、保育士不足ということが盛んに言われています。東京など都市部では待機児童が多い。そこで待機児童解消のために保育施設をたくさん作る。川崎市ですと去年一年間で約50園が新たにできまして、50園かける職員の人数分の保育士が新たに必要になってくる、ということでございます。

このように保育士不足が盛んに言われておりますが、私は長野県の場合はどちらかというと違う意味で生じてきた保育士不足ではないかと思っています。長野県の場合は7、8割が公立園でありまして、公立では、今ほとんどが嘱託採用であります。

原因は公立園の運営費が一般財源化されたこと、これからの少子化を見込んで正規職員として雇い入れることができない、それで嘱託化という流れになってきたのだらうと思います。その結果、なかなか保育士さんにならうという方がいない。一般の奨学金をもらって保育士養成校に入学し、卒業する時には、百万とか二百万円くらいの借金をもって卒業する。二百万円位の借金を持っていて、じゃあ嘱託で働くかというと、ちょっとこれは難しい、という流れがありまして、ますます保育士不足というのが解消されにくいのではないかと考えております。

今回のこの新支援制度では、民間の場合ですと子ども子育て勘定から消費税の増税分の財源が回ってくるという流れになっておりますので、それ

ぞれの市町村がどう判断するかではありますが、民営化を進めていくと、およそ今の財源の半分くらいで一園が運営できると思います。そうすると民営化が進んでくる。未滿児保育の分だけ足りないから未滿児は小規模保育事業で対応しよう、ということでは対応される市町村もでてくるだろうと思います。小規模保育事業ですと株式会社も入ってきますので、その辺のところをどう判断していくのかということが大変重要になってくると思っています。

ちなみに、東京で乳児が亡くなったというニュースが報道されました。これは株式会社が受託している園でのことで、お子さんを2時間ほったらかしだったそうです。途中で窓から覗いて確認したということのようですが、直接お子さんに対応したり係わったわけではないのです。ですから、保育の質というものがどこまで担保されるのか、経済的なもの、先ほどの施設型給付費を受ければ財源は安くて済みますよ、人も雇えますよということにもなります。一方で株式会社任せにしていることのような事件も起きてくる可能性もあるということですので、特に市町村でどのように保育を行っていくかということが大変重要になってくると思っています。保育の質をいかに担保していくのか、ということが大切です。

保育を、子どもたちの環境を整えるのが保育士さん、保育所でありますが、その保育士や保育所の環境を整えていくのは、やはり市町村であったり我々保育連盟であると思っています。皆様方の保育の質がぜひ高まって、長野県はこんなに素晴らしい保育をしているんだということが実現できるようにしていきたいと考えておりますので、皆様方のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成二十七年 長野県保育園連盟事業報告

会 議

◎(1) 1 評議員会

平成27年5月11日(月) (長野市 ホテル信濃路)
第1号議案 平成26年度長野県保育園連盟事業報告について

第2号議案 平成26年度長野県保育園連盟会計収支決算報告について

監査報告 平成27年度長野県保育園連盟事業計画(案)について

第3号議案 平成27年度長野県保育園連盟会計収支予算(案)について

第4号議案 会長・副会長の承認について

第5号議案 監事の選任について

第6号議案 顧問の設置について

第7号議案 長野県子ども・家庭課による行政説明面評決

◎(2) 一般社団法人長野県保育園連盟設立総会

平成28年1月21日(木)
長野県保育園連盟の一般社団法人化に関する書面評決

◎(3) 1 平成27年度評議員会に付議する議案について
2 その他

第1号議案 平成27年度長野県保育園連盟会計決算見込について

第2号議案 一般社団法人長野県保育園連盟定款について

第3号議案 一般社団法人長野県保育園連盟会費規定(案)について

第4号議案 一般社団法人長野県保育園連盟平成28年度事業計画(案)について

第5号議案 一般社団法人長野県保育園連盟平成28年度収支予算(案)について

報告事項
・副会長の選任について
・顧問の委嘱について
・諸規定の継続について

◎(3) 1 平成27年度評議員会に付議する議案について
2 その他

◎ 平成28年1月14日(木) (長野市 中央隣保館)

1 長野県保育園連盟の一般社団法人化について
2 一般社団法人化に関する評議員会の書面評決の実施について

3 一般社団法人の設立時社員について

4 一般社団法人の設立時理事、監事の就任について

◎ 平成28年3月9日(水) (長野市 ホテル信濃路)

1 一般社団法人長野県保育園連盟設立総会に付議する議案について

2 副会長の選出について

3 顧問の委嘱について

4 諸規定の継続について

◎(4) 監査 平成27年4月13日(月) (長野市 ホテル信濃路)

1 平成26年度長野県保育園連盟の事業及び収入支出決算について受検

2 正副会長会議

◎(5) 平成27年4月13日(月) (長野市 ホテル信濃路)

1 平成26年度長野県保育園連盟事業報告について

2 平成26年度長野県保育園連盟会計(一般・積立金)収支決算について

3 平成27年度長野県保育園連盟事業計画(案)及び予算(案)について

4 会長、副会長の選出及び監事の選任について

5 第55回長野県保育園研究大会開催要綱(素案)について

6 その他当面する課題について

◎ 平成27年5月11日(月) (長野市 ホテル信濃路)

1 平成27年度第55回長野県保育園研究大会(信濃町)の運営について

2 平成27年度第56回関東ブロック保育園研究大会(静岡市)への参加について

3 その他当面する課題について

◎ 平成27年8月10日(月) (長野市 ホテル信濃路)
1 平成27年度長野県保育園連盟会長表彰候補者の審査について

2 平成27年度第55回長野県保育園研究大会の大会宣言(案)、進行計画等について

◎ 平成27年10月18日(日) (信濃町 一茶記念館会議室)

1 平成28年度第56回長野県保育園研究大会の記念講演講師の選定について

2 長野県知事及び担当部長との懇談及び要望書の提出について

3 その他当面する課題・日程等について

◎ 平成27年12月21日(月) (長野市 ホテル信濃路)

1 保育施策と予算に関する知事要望書の提出及び山本担当部長との懇談

2 長野県保育園研究大会について

3 アンケート結果

・平成28年度第56回長野県保育園研究大会(東御市)の記念講演講師について

・平成29年度第57回長野県保育園研究大会(岡谷市)の日程等について

◎ 平成28年3月9日(水) (長野市 ホテル信濃路)

1 一般社団法人長野県保育園連盟設立総会に付議する議案について

2 副会長の選出について

3 顧問の委嘱について

4 諸規定の継続について

5 その他当面する課題・日程等について

2 各部署、委員会の活動

3 研修会等

(1) 「保育所地域子育て塾」の開催 (県下4会場) 東信地区 平成27年7月4日(土) 佐久市 コスモホール (802名参加) 演題 「保育がうまくいく たった3つのルール」

- 講師 (株)KANSAIこども研究所
原坂 一郎 先生
- 南信地区 平成27年7月11日(土) 飯田市
飯田文化会館 (806名参加)
演題 「親心を育むために」一日保育士体験
で生まれる信頼関係」
- 講師 松居 和 先生
北信地区 平成27年7月11日(土) 千曲市
更埴文化会館 (603名参加)
演題 「保育がうまくいく たった3つの
ルール」
- 講師 (株)KANSAIこども研究所
原坂 一郎 先生
中信地区 平成27年11月7日(土) 松本市
浅間温泉文化センター (475名参加)
演題 「保育かわらなきや」
- 講師 社会福祉法人子ども家福祉会理事長
赤西 雅之 先生
(2) 私立保育所理事長・所長研修会
平成27年9月2日(水)～3日(木) 諏訪市
ホテル浜の湯 (61名参加)
・行政説明 長野県民文化部 こども・家庭
課 担当係長 大内 貴子 氏
・講演 (第1日) 演題 「ネットワークの
力」が保育の質を上げる」
講師 ジャーナリスト、東京都市大学客員
准教授 猪熊 弘子 先生
(第2日) 演題 「認定こども園に移
行して」
- (3) 講師 長野県保育園連盟会長 海野 暁光氏
長野県社会福祉協議会の研修 (保育所関係)
・福祉職員生涯研修 (新任職員2会場 延べ
4日、323名)
・子育て支援機関三歳未満児担当保育士研修
(3会場、281名)
・子育て支援機関障がい児担当保育士研修
(2会場、185名)
・全国保育協議会、全国保育士会等の研修
・全国保育協議会関係
・教育・保育施設長専門講座 6名
・保育人材養成会議 1名
- (4) 全国保育士会関係
主任保育士・主幹保育教諭特別講座 3名
正副会長セミナー 1名
食育推進研修会 1名
・関東ブロック
保育士の専門性を高める研修会 3名
保育士会リーダーセミナー 2名

4

保育研究大会

- (1) 第55回長野県保育研究大会(上水内郡信濃町)
平成27年10月17日(土)～18日(日)
総参加者数 766名
・分科会 会場 信濃小中学校 教室他
15テーマ 17分科会
・全体会 会場 信濃小中学校 体育館
研究発表 上水内保育所運営協議会
式典
記念講演 演題 「子どもの心に寄り添う保育
」それって保育の常識ですか?」
講師 りんごの木代表 柴田 愛子 先生
第56回関東ブロック保育研究大会(静岡県
静岡市)
平成27年7月2日(木)～3日(金)
長野県関係参加者数 62名
長野県関係の分科会発表者等
議長 第6分科会 長野県保育園連盟副会
長(中丸子保育園園長)
長坂美江子先生
発表者 第4分科会
飯田市慈光松尾保育園副園長
中上 玲子先生
飯田市慈光松尾保育園主任鈴木 雅子先生
第8分科会木島平村おひさま保育園保育士
清水 絵美先生
木島平村おひさま保育園保育士
芳川 亜紀先生
(3) 全国大会
第59回全国保育研究大会(山口県山口市)
平成27年11月11日(水)～13日(金) 長野県関係
参加者数 2名
全国表彰受賞者 飯綱町(三水保育園)
丸山 愛子 先生

5

全国・関東ブロックの会議へ参加

- (1) 全国保育協議会協議員総会
全国保育組織正副会長等会議・事務局長会議
全国保育士会委員総会
関東ブロック保育協議会会長会議
関東ブロック保育事業連絡協議会
関東ブロック保育士会会長会議
(2) 機関紙「保育しなの」の発行(広報委員会の
開催 3回)
◎第157号 6月22日発行
◎第158号 12月1日発行(長野県保育研究
大会特集号)
◎第159号 3月1日発行
7 保護者向け情報誌(すこやか)の発行
第20号(27年5月)、第21号(27年9月)、第22
号(28年1月)
8 保育施策及び予算に関する知事要望等(海野
会長及び全副会長出席)
平成27年12月21日(月) 長野県庁
「保育施策と予算に関する要望書」を提出し、
阿部知事及び山本こども・若者担当部長と懇
談した。
9 保育士養成校との懇談会
平成28年3月9日(水)(長野市 ホテル信濃路)
(25名参加)
県内保育士養成校9校から11名の先生にご参
加いただき、会長、副会長、私立管理部会長
等との懇談会を開催した。
10 その他
・定期刊行物等の配送(毎月1回)
・園児の保護者に「食事に関するリーフレット」
を無償配布
・保育所で使用する保育要録等の共同印刷

・第49回全国保育士会研究大会(千葉県千葉市)
平成27年10月21日(水)～22日(木)
長野県関係参加者数 4名
発表者 第8分科会
松本市認定こども園深志主任 吉田 陽子先生
松本市認定こども園深志保育士 洪谷 文佳先生

平成27年度 長野県保育園連盟一般会計決算書

収入決算額 27,565,132円 支出決算額 23,413,448円 差引 4,151,684円 (翌年度へ繰越)

収入の部

(単位:円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)	増減(B)-(A)	説 明
負 担 金	17,680,000	18,446,900	766,900	円 所・人 円 保育所 5,000× 564= 2,820,000 従事者 1,500× 6,984= 10,476,000 園 児 100× 48,689= 4,868,900 県社協 500× 564= 282,000
共 同 募 金 配 分 収 入	0	0	0	共同募金会助成金
参 加 費	1,600,000	1,532,000	△ 68,000	保育研究大会 @2,000×747人 @2,000× 19人
事 業 収 入	600,000	1,600,000	1,000,000	共同印刷ほか
雑 収 入	570,000	714,311	144,311	全保協等交付金・預金利子
繰 越 金	5,271,000	5,271,921	921	前年度繰越金
合 計	25,721,000	27,565,132	1,844,132	

支出の部

(単位:円)

項 目	予算額			決算額(B)	差引残額 (A)-(B)	説 明
	当初予算額	流用額	流用後の 予算額(A)			
事 務 費	7,609,000	△77,416	7,531,584	7,354,493	177,091	
職 員 費	6,559,000		6,559,000	6,427,526	131,474	職員2名分給与・手当・社保等
旅 費	150,000	△70,925	79,075	79,075	0	役職員旅費
需 用 費	400,000	△6,491	393,509	347,892	45,617	事務用品・光熱費・コピー代等
役 務 費	500,000		500,000	500,000	0	電話・切手・宅配便等
会 議 費	786,000		786,000	743,571	42,429	理事会・評議員会・正副会長会
事 業 費	10,656,000		10,656,000	8,588,052	2,067,948	
研究大会費	3,176,000		3,176,000	2,745,905	430,095	保育研究大会(信濃町)
研 修 費	1,613,000		1,613,000	1,015,676	597,324	関プロ保育研究大会・保育所長講座等
調査研究費	2,133,000		2,133,000	1,551,564	581,436	管理部会・保育部会・給食委員会
食事リーフレット 配布事業費	375,000		375,000	308,292	66,708	食事リーフレット印刷費
機関紙発行費	1,465,000		1,465,000	1,259,124	205,876	保育しなの年3回発行・編集委員会
保育所地域 子育て塾	1,200,000		1,200,000	1,122,017	77,983	保育所地域子育て塾(4会場)
表 彰 費	20,000		20,000	12,960	7,040	会長表彰
中央会議費	674,000		674,000	572,514	101,486	全国保育協議会・全国保育士会・関プロ会長会議等
負 担 金	4,298,000		4,298,000	4,277,916	20,084	全国保育協議会・全国保育士会・関プロ会長会、県社協等
積 立 金	1,600,000		1,600,000	1,600,000	0	平成32年度関ブロック・保育研究大会(長野県当番)用
予 備 費	772,000	77,416	849,416	849,416	0	公益法人会計ソフト・法人登記、定款認証事務委託
合 計	25,721,000	0	25,721,000	23,413,448	2,307,552	

平成27年度 長野県保育園連盟一般会計積立金決算書

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
平成26年度末積立金残額	2,000,000	
平成27年度 一般会計からの繰入	1,600,000	
積 立 額 積立金利子	399	
平成27年度取崩し額	0	
平成27年度末積立金残額	3,600,399	

平成27年度 長野県保育園連盟事業会計決算書

収入決算額 14,562,547円 支出決算額 7,255,534円 差引 7,307,013円 (翌年度へ繰越)

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	増減(B)-(A)	説 明
共 同 印 刷	2,800,000	2,981,300	181,300	
研 究 集 録 大 会 参 加 費	2,800,000	2,734,000	△ 66,000	JTBより 2,462,000 直販分 272,000
予算対策協力金	1,200,000	1,033,945	△ 166,055	
諸 収 入	120,246	291,548	171,302	発行図書 2,500 図書斡旋 17,781 サンワールド 200,000 全人同 64,000 預金利子(定期) 5,957 預金利子(普通) 1,310
繰 越 金	7,521,754	7,521,754	0	
合 計	14,442,000	14,562,547	120,547	

支出の部

(単位:円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	差引残額(A)-(B)	説 明
共 同 印 刷	2,400,000	2,074,050	325,950	
保育研究大会	2,800,000	2,578,520	221,480	
予算対策協力金	600,000	511,864	88,136	
一般会計繰出金	600,000	1,600,000	△ 1,000,000	
諸 費	8,042,000	491,100	7,550,900	
合 計	14,442,000	7,255,534	7,186,466	

積立資産の部

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
定 期 預 金	13,500,000	利払式

平成27年度 長野県保育災害保障共済会一般会計決算書

収入決算額 7,723,308円 支出決算額 6,535,500円 差引 1,187,808円 (翌年度へ繰越)

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	増減(B)-(A)	説 明
分 担 金	0	100,000	100,000	よこうち保育園 (新規)
補 助 金	0	0	0	県社協補助金の廃止
雑 収 入	22,083	15,391	△ 6,692	公社債投信分配金 14,712 預金利子 679
繰 入 金	0	0	0	
繰 越 金	7,607,917	7,607,917	0	前年度繰越金
合 計	7,630,000	7,723,308	93,308	

支出の部

(単位:円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	差引残額(A)-(B)	説 明
運 営 費	40,000	20,788	19,212	
会 議 費	35,000	17,700	17,300	総会準備 14,580 監査準備 3,120
事 務 費	5,000	3,088	1,912	振込手数料 540 文具 2,548
事 業 費	1,000,000	0	1,000,000	
給 付 金	1,000,000	0	1,000,000	
積 立 金	6,520,000	6,514,712	5,288	
積 立 金	6,520,000	6,514,712	5,288	新規積立 6,500,000 公社債投信等分配金再投資 14,712
予 備 費	70,000	0	70,000	
合 計	7,630,000	6,535,500	1,094,500	

平成27年度 長野県保育災害保障共済会積立金決算書

(単位:口)

項 目	残高数量	備 考
前期末現在額(前年度繰越額)	27,656,009	公社債投信 6本 CRF 1本
当 期 積 立 額	6,514,712	
新規積立(野村FFF)	6,500,000	
公社債投信分配金	13,355	平成27年度分配金の再投資
野村CRF分配金	231	平成27年度分配金の再投資
野村FFF分配金	1,126	平成27年度分配金の再投資
当 期 取 り 崩 し 額	0	
当 期 末 現 在 額	34,170,721	公社債投信 6本、CRF 1本、FFF 1本

一般社団法人長野県保育連盟 平成28年度 一般会計収支予算書

収入予算額 26,119千円 支出予算額 26,119千円 差引 0千円

収入の部

(単位:千円)

項 目	予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	説 明
会 費	17,980	17,680	300	保育所 5,000円× 560 所= 2,800 従事者 1,500円× 6,700 人=10,050 園 児 100円× 48,500 人= 4,850 県社協 500円× 560 所= 280
参 加 費	1,600	1,600	0	県研究大会参加費 2,000円×800人=1,600
事業会計繰入金	2,000	600	1,400	共同印刷、斡旋図書還元利益等
雑 収 入	388	570	△ 182	地方活動費交付金(全保協・保育士会) 預金利子等
前年度繰越金	4,151	5,271	△ 1,120	
合 計	26,119	25,721	398	

支出の部

(単位:千円)

項 目	予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	説 明
事 務 費	8,315	7,609	706	
職 員 費	6,566	6,559	7	職員2名分給与・手当、社会保険料事業主負担分等
旅 費	150	150	0	役職員一般旅費
需 用 費	400	400	0	事務用品、光熱水費、コピー代等
役 務 費	500	500	0	電話料、郵便料、宅配送料等
委 託 料	619	0	619	決算調整委託料、保守委託料
公 課 費	80	0	80	法人県民税、法人市民税
会 議 費	750	786	△ 36	通常総会、理事会、正副会長会議
事 業 費	11,005	10,656	349	
研 究 大 会 費	3,170	3,176	△ 6	保育研究大会(東御市) 講師謝金・旅費、助言者謝金・旅費、開催要綱、 大会資料の印刷、開催地交付金、実行委員会費、委託費等
研 修 費	1,309	1,613	△ 304	関プロ大会・全国大会へ発表者等を派遣 中央研修講座受講補助 (施設長、主任保育士・主幹保育教諭) 食育研修、関プロ人材養成会議等派遣
調 査 研 究 費	1,922	2,133	△ 211	管理部会、保育部会、給食委員会
食事リーフレット 配 布 事 業 費	345	375	△ 30	リーフレット(子どもの食事3種類)印刷
広 報 費	2,355	1,465	890	「保育しなの」発行(3回)、広報委員会 ホームページ作成初期費用
保育所地域子育て塾	1,200	1,200	0	保育所地域子育て塾 4 地区で開催
表 彰 費	30	20	10	会長表彰(表彰状、記念品)
中 央 会 議 費	674	674	0	役職員の全国・関プロ各種会議派遣経費
負 担 金	4,303	4,298	5	全国保育協議会、全国保育士会会費 長野県社会福祉協議会会費、関プロ会長会負担金等
積 立 金	1,600	1,600	0	関プロ保育研究大会(平成32年当番)、開催準備積立金
予 備 費	146	772	△ 626	
合 計	26,119	25,721	398	

一般社団法人長野県保育連盟 平成28年度 一般会計積立金予算書 (単位:円)

項 目	金 額	備 考
平成27年度末積立金残額	3,600,399	
平成28年度一般会計からの繰入	1,600,000	
積 立 額 積立金利子	721	平成26・27年度積立分に対する利子 年0.025%、利子税20%
平成28年度取崩し見込額	0	
平成28年度末積立金残額見込額	5,201,120	

一般社団法人長野県保育連盟 平成28年度事業会計予算書

収入予算額 14,025,000円 支出予算額 14,025,000円 差引 0円 (翌年度へ繰越)

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	説 明
共 同 印 刷	2,700,000	2,800,000	△ 100,000	
研究集録大会参加費	2,800,000	2,800,000	0	
予算対策協力金	1,100,000	1,200,000	△ 100,000	
諸 収 入	117,987	120,246	△ 2,259	
繰 越 金	7,307,013	7,521,754	△ 214,741	前年度繰越金
合 計	14,025,000	14,442,000	△ 417,000	

支出の部

(単位:円)

科 目	予算額(A)	前年度予算額(B)	差引残額(A)-(B)	説 明
共 同 印 刷	2,700,000	2,400,000	300,000	
保育研究大会	2,800,000	2,800,000	0	
予算対策協力金	550,000	600,000	△ 50,000	
一般会計繰出金	2,000,000	600,000	1,400,000	
諸 費	5,975,000	8,042,000	△ 2,067,000	
合 計	14,025,000	14,442,000	△ 417,000	

積立資産の部

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
定 期 預 金	13,500,000	利払式

平成28年度 長野県保育災害保障共済会予算書

収入予算額 1,253,000円 支出予算額 1,253,000円 差引 0円

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	説 明
分 担 金	55,000	0	55,000	加入分担金(1園)
補 助 金	0	0	0	
雑 収 入	10,192	22,083	△ 11,891	公社債投信等分配金 預金利子
繰 入 金	0	0	0	
繰 越 金	1,187,808	7,607,917	△ 6,420,109	前年度繰越金
合 計	1,253,000	7,630,000	△ 6,377,000	

支出の部

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	説 明
運 営 費	40,000	40,000	0	
会 議 費	35,000	35,000	0	運営委員会、審査委員会
事 務 費	5,000	5,000	0	
事 業 費	1,000,000	1,000,000	0	
給 付 金	1,000,000	1,000,000	0	障害給付金第1級 2件分
積 立 金	10,000	6,520,000	△ 6,510,000	
新 規 積 立	0	6,500,000	△ 6,500,000	
分配金再投資	10,000	20,000	△ 10,000	公社債投信等分配金再投資
予 備 費	203,000	70,000	133,000	
合 計	1,253,000	7,630,000	△ 6,377,000	

平成28年度 長野県保育災害保障共済会積立金予算書

(単位:円)

項 目	残高数量	備 考
平成27年度末現在額(A)	34,170,721	公社債投信 6本、CRF 1本、FFF 1本
当期積立見込額	0	
新 規 積 立	0	
公社債投信分配金	8,930	
野村 C R F 分配金	110	平成28年度分配金の再投資見込額
野村 F F F 分配金	960	平成28年度分配金の再投資見込額
合 計 (B)	10,000	平成28年度分配金の再投資見込額
当 期 取 崩 見 込 額	0	
平成28年度末見込額(A)+(B)	34,180,721	公社債投信 6本、CRF 1本、FFF 1本

平成28年度保育関係大会・研修会等日程表

一般社団法人 長野県保育連盟 2016.4月 現在

行事予定・研修計画	開 催 月 日	開 催 場 所
大会関係		
第57回 関東ブロック保育研究大会	7月7～8日	神奈川県足柄下郡箱根町
第60回 全国保育研究大会	10月12～14日	徳島県徳島市
第56回 長野県保育研究大会	10月15～16日	東御市
第50回 全国保育士会研究大会	11月17～18日	兵庫県神戸市
全国等研修関係		
2016年度 教育・保育施設長専門講座 プログラム(1)	29年1月予定	東京都内または近郊
2016年度 教育・保育施設長専門講座 プログラム(2)	7月予定	東京都内または近郊
2016年度 教育・保育施設長専門講座 プログラム(3)	9月予定	東京都内または近郊
平成28年度公立保育所等トップセミナー	8月26～27日	新横浜プリンスホテル(神奈川県横浜市)
平成28年度保育所・認定こども園 保健・衛生専門研修会	6月予定	東京近郊
保育所・認定こども園リーダーシップセミナー	29年2月予定	東京都内または近郊
保育新制度セミナー	6月予定	全国4か所で開催
共催 保育21世紀セミナー 2016	7月予定	東京都内または近郊
第43回 全国保育士研修会	29年2月予定	東京都内または近郊
第29期 主任保育士・主幹保育教諭特別講座 前期集中講義	6月10～13日	ロフォス湘南(神奈川県三浦郡)
第29期 主任保育士・主幹保育教諭特別講座 後期集中講義	9月24～27日	ロフォス湘南(神奈川県三浦郡)
第12回「保育スーパーバイザー」養成研修会	9月28～29日	全社協・会議室
平成28年度食育推進研修会	8月3～4日	全社協・会議室
県 保 連		
保育所地域子育て塾 (東 信)	9月10日	小諸市文化センター
〃 (南 信)	7月9日	諏訪市文化センター
〃 (中 信)	11月19日	松本市浅間温泉文化センター
〃 (北 信)	7月2日	飯山市文化交流館～なちゅら～
県社協 福祉人材研修センター		
・福祉職員生涯研修【リーダー課程(保育所等)】		
・福祉職員生涯研修【新任職員課程(保育所等)】		
・子育て支援機関三歳未満児担当保育士研修		
・子育て支援機関障がい児担当保育士研修		
長野県社協の研修の詳しい開催日程、会場等は		
長野県福祉研修実施団体共同サイト【きやりあねっと】 http://www.career-net.jp/ をご参照ください。		
※冊子【きやりあねっと福祉研修ガイド2016】が4月に県社協より、公立は各市町村へ、		
私立は各保育所宛へ郵送されています。		
★お問い合わせ 県社協 福祉人材研修センター 研修担当 ☎026-227-5208		

◎ 研修の日程や会場が変更になることもあります。

※ 新任保育士研修には、臨時・嘱託職員も積極的に参加してください。

※ 県社協主催の研修についても、受講料が必要です。

第五十六回 長野県保育研究大会

子ども達の笑顔のために

実行委員長 東御市 高橋 富士子

第五十六回長野県保育研究大会は、東信地区の東御市において、十月十五日（土）十六日（日）の二日間にわたり開催されます。

東御市は旧東部町と旧北御牧村が平成十六年四月に合併し、誕生してから九十二年が経過しました。『真田丸』で盛り上がっている上田市と落ち着いた城下町の小諸市の間にある人口約三万人の小さな市ですが、『小さくともきらりと光る』東御市をめざしています。

北は浅間山連山を背に、南は蓼科や八ヶ岳連峰の雄大な山なみが見られたいへん景色がよく、四季を通じて晴天率が高くて過ごしやすいいところ。巨峰、くるみ、白土馬鈴薯、スイートコーン、八重原米など豊かな農産物はどれもおいしいです。里山を再生したワイン用のぶどう畑が広がり、ワイナリーでは東御ワインが醸し出されています。千曲川ワインバレー特区に認定され、ワインの新興産地として注目を集めています。観光スポットとしての湯の丸高原

は、冬はスキー、スノーボード、夏はレンゲツツジの花の高原になります。また、千曲川に沿って北国街道海野宿の歴史ある佇まいがあり、千曲川左岸にある芸術むらにはアート空間が広がり、秋に火のアートフェスティバルが行われます。

都会からのアクセスもよく、『ほどよく田舎』などところなど、住みよさランキングで高評価を受けており、自分の住むまちが大好きと誇れる東御市です。

さて、そのように恵まれた環境の



第1日の会場 東部中学校

なかに育つ子どもたちですが、ゲームやテレビなどの時間が増えるなど体を使って遊ぶことや自然の中でのびのびと遊ぶ経験が少なくなっているのが現状です。

こうした課題に対し、東御市では平成二十一年度から指導員による運動遊びを始め、平成二十五年からは運動遊び専門保育士部会が発足しました。毎日十五分以上体を動かして遊ぼうと『みんなでチャレンジ運動あそび』レッツ15（いちご）タイム』の活動を継続し、保育士が主体となつて運動遊びの日常化を目指しています。

子どもたちのお尻にしっぽをつけて取り合うしっぽ取り、遊具や木々の周りを走るジェットコースターマラソンなど親しみやすい遊びを通して『体を動かすことが好きな子になつてほしい』と願い、日々取り組んでいます。保育士自身が思い切り楽しむことで、子どもたちの『たのしい、できた、またやりたい』という満足感や自信、意欲につながってきています。鬼ごつこの駆け引きやチームの励まし合い、できなくてもあきらめない気持ちなど、身体の発達だけでなく、心の成長や人との関わり方にも育ちがみられます。このような取り組みをレポートにまとめて保育

研究大会二日目の全体会で発表させていただきます。

今、保育現場にはたくさんさんの役割が求められていますが、保育が目指すことは、子どもの最善の利益になつているかどうか、子どもたちにふさわしい生活の場になっているかどうかです。目の前にいる子どもたちのために私たちは何ができるか、共に学びあい語り合つて、実り多い大会になりますよう、よろしくお願ひします。

長野県保育連盟事務局、保育部会の皆様に支えていただきながら、二日間の大会がスムーズに進行し、気持ちよく参加していただけるようにと願いつつ、準備を進めています。皆様にお会いできることを楽しみに、心よりお待ちしております。



第2日の会場 東御市文化会館サンテラスホール

第四十九回

全国保育士会研究大会に参加して

松本市 認定こども園深志 主幹保育教諭 吉田 陽子

昨年十月二十一日、二十二日の二日間、千葉県千葉市に於いて第四十九回全国保育士会研究大会が開催されました。「子どもの命を育み、学ぶ意欲を育てる保育の実現をめざして」あなたが大事 共に歩む未来へ」という大会テーマのもと、全国から大勢の保育関係者が集まり、講演会や分科会に参加し研鑽を積みました。

私たちの園は「専門性の向上をはかる」専門職としての責務」の分科会に参加し、当園の研究テーマである「自発的な遊びや生活から子どもの学びへと発展させる保育」について発表しました。研究内容は、四歳児では色水遊びから、玉ねぎの皮での染色活動へと発展していった様子を、またこの子たちが五歳児に進級し「自分たちでお米を炊こう」と水加減に試行錯誤している姿から、土鍋や飯ごうでのお米炊きに発展していった様子を今までの記録を解析し、考察していききました。

この研究発表が決まる前から、園内研修と称して各クラステーマを決め様々な活動に取り組んできました。が、保育者が主体となっている傾向があり、果たしてそれでいいのかというところで、次の年からは「子どもたちのつばやきをひろっていきこう」「保育者はゴールを決めてしまいうのではなく、子どもたちがやりたい、やってみたいということをできる限り尊重し、柔軟に活動を展開していきこう」「子どもも保育者もワクワクドキドキした活動にしよう」ということに改めました。そのためにも子どもたちの様子、特につばやきや言葉を大切にすることを重視してききました。

そうした折に、この研究発表の話をしていただきました。文教学院大学の梶島先生の指導の下、約八ヶ月間、記録を整理したり、そこで育っていること、子どもたち同士のやりとり、この場面での保育者の気持ちはどうであったか、どうしてそういった言葉がけをしたのか、その時の環境はどうであったか、保護者とのやりとり、他のクラスや保育者との関係など丁寧に振り返る作業をしていきました。それと並行して様々な分野の文献を読み、子どもたちの活動を学術的に検証していきました。例えばお米を炊くときになかなか七の目盛を見つけれず、その時は「何でだろ。」と書いていました。文献によると、子どもがより大きな数を正確に捉えることができるようになるには、数を表す言葉(数詞)の獲得と、それを用いてさまざまな場面です物事を数える経験が重要な役割を果たす。※(1)と記されており、なるほどと思いました。また、子どもが今必要としているそのときに、子どもが必要としていることを、あるいは子どもに獲得してほしいことを、環境にしみ込ませて、結果として子ども自身がそれを獲得していくことが重要なのである。※(2)と記されており、自分たちの環境構成はどうであったか再確認することができました。そして、保育者は、言葉ではなく人を育てている。その人を豊かに育てていくなかで、言葉も育っていくのではないだろうか。※(3)という文章から人的環境の重要性を改めて痛感しました。

梶島先生とはメールでのやりとりが主でしたが、打ち合わせがてら園の雰囲気を見たいとおっしゃってくださり、早い時期に来訪してくださいました。そこで園の方針や、その後の原稿のやりとりが大変スムーズにできました。また、いきづまった時には時間をつくってください、私が上京し原稿を添削してくださいました。学生に戻ったかのような八ヶ月間でしたが、すてきな指導者の下で勉強できたことは本当に感謝しています。

今回こういった貴重な経験ができ、多くの学びができたことを大変うれしく思います。

ありがとうございました。

引用文献

※(1) 榊原知美 (平成26年)

「算数・理科を学ぶ子どもの発達心理」文化・認知・学習ミネルヴァ書房P 50

※(2) 清水益治・森敏明 (平成25年)

「0歳～12歳児の発達と学び」保幼小の連携と接続に向けて」北大路書房P 82

※(3) 同右P 95

県内保育士養成校との懇談会

～養成校と保育現場で互いにどのようなように
保育士を育てていくか～

長野県内に9校ある保育士養成校の先生方と当連盟役員との懇談会を3月9日、長野市のホテル信濃路において開催しました。



本日は、毎年一回開催させていたでいております、保育士養成校の先生方との懇談会であります。皆さまと共に長野県の保育の質をいかに上げていくか、お互いに二人三脚で取り組みたいと思っておりますので、忌憚のない意見交換の場にしたいと考えております。

また本日は長野県から保育専門推進員の先生にもご参加をいただいております。県と養成校と各施設が一体となって長野県の保育の質全体が向上していければいいなと思っております。

尚、現在長野県保育園連盟は任意団体であります。4月から一般社団法人長野県保育園連盟として新たに再スタートさせていく予定です。またお世話になると思いますので、よろしくお願いいたします。

《県福祉大学校中村先生あいさつ》

長野県福祉大学校の中村と申します。養成校の幹事校として本来ならば本校の校長が出席してごあいさつ

を申し上げるべきところでありますが、校内行事と重なり出席できませんので、代理でごあいさつ申し上げます。

保育園連盟の皆様には、生徒の実習受入れ先として、あるいは就職先として大変お世話になっておりますことに改めて感謝を申し上げます。

実習を終えて戻ってきた学生は、驚くほど成長して戻ってくる者もおりますが、一方では悩みを抱えて帰ってくる者もいます。

いろいろご指摘があらうかと思いますが、実習ではぜひ温かく見守っていただけたらと思っています。また養成校のほとんどが二年で修了するため、現場で求められる水準には達せずに卒業していく生徒も多くおります。就職してから成長できるようにご指導をお願いいたします。

◎ 県保連より

・実習生は社会人としての心構えができていないように思う。

・手遊びを覚えていくという実習生は伸びるし良い実習になる。

・実習ノート、記録のとり方を理解していない。学校ではどうなのか。

・社会性、コミュニケーションに欠ける生徒が多いように感じる。

・生活の基礎・基本ができていない。

◎ 養成校より

・今の学生は高卒段階で自立・成長しきれていないのが現実。

・現場から求められる水準とのギャップが大きいので悩んでしまう。

・「書くこと」が保育者の武器、書けないことが分かったことが収穫なのではないか。

・現場で気付いたことは学生に言って欲しい。泣いてもいいから言い過ぎと思わずに言って欲しい。

・実習時に、成功した経験と失敗した経験の「振り返りの仕方」の手ほどきをお願いできないか。

・保育は、具現化・可視化が重要であると二年生の時に気付かせようとしている。

・人格の否定では困る。常識とのギャップを承知したうえで学生とふれあって欲しい。

◎ まとめ

実習生を受け入れる側も、学生から就職先として選ばれる側であることも考えないといけない。もう一度原点に戻り、保育士をどのように育てていくか、養成校と県と施設が一体となって長野県の保育の質全体が向上するようこれからも協力していくことを確認した。

《海野会長あいさつ》

皆様方、本日はお忙しい中お越しいただきましてありがとうございます。私は飯島前会長の後を受けまして、今年度から保育園連盟の会長を務めております。松本市認定こども園深志の園長をしております海野と申します。

心豊かな子どもたちの成長を願って

佐久保健福祉事務所 保育専門相談員 日向良孝

佐久地方には認可保育所が五十五園あります。各保育園で、先生方は、豊かな自然環境や地域の方々の思いに支えられながら、「夢をかなえた保育園の先生」として、一人一人の子どもに向き合って成長を支えるために、ご努力をされています。子育てをする家庭環境も大きく変わり、また、保育所に対する考え方にも変化が見られる昨今、多忙な日々を過ごす先生方の姿に触れるにつけ、ご努力が報いられるようになればと思います。

管内には、南佐久、佐久、小諸の三つの保育協会と北佐久保育連絡会があり、それぞれの研修会等で講話をさせていただく機会があります。その折に、小学生の児童詩を紹介させてもらっています。今春、次のような作品を紹介しました。

はるをもつてきたね

一年 ともこ さん

犬とていぼうをあるいていると
ちらつとゆきの中に
花をみつけた。

ひめおどりこそうの花びらに、
ちよこんとゆきのつぶが
のつていた。

おかあさんにみせたくて
花を三ことつて

かけ足でうちへかえった。

おかあさんにみせると

「まあ、かわいらしい。

ともちゃん

はるをもつてきたね。」

といった。

ちいさなちゃんに水をいれて

花をいれた。

わたしとおかあさんで

いつまでもながめていた。

この詩から、子どもの純真さや親子の温かさが伝わります。また、そこに保育をする上での大切なことが表現されている気がします。自然の美しさに心が動いた、ともこさんです。そして、その発見を分け合おうと駆け足で家に帰ります。お母さんは、子どもの感動を受け取り、「春を持ってきたね」とその行為に意味づけをしてあげます。茶碗に浮かぶ花びらを二人で眺めながら、ともこさんの心や行為は、新たな自己へ昇華していきます。さらに、大切なことは、こういうことを書くことを通して表現させた先生がいるということです。この作品を読むことで、自身

はもとよりたくさんの方が、温かな気持ちになり、他者理解や新たな人間関係や自己の心と向き合う機会となります。

保育園を訪問し教室に入ると、

見ず知らずの私に子どもたちが、作品を手に「見て、見て」と嬉しそうに語りかけてくれる場面に出会います。先生方が、教室を自己表現の場として大切に経営されているので、子どもたちが、安心して語りかけてくれるのだと思います。活動の成果に喜びや満足感を抱くと共に、自分の存在を確認するがために語りかけてくるのだと思います。そのことで、子どもたちは、自信や自己肯定感を深めていきます。一方、先生と子どもたちのやり取りの中で、「見て、見て」と表現する子どもたちの問いかけに「がんばったね」「されいだね」「じょうずだね」という承認の言葉がけだけで、子どもたちの情動に込められていないのではないかと感じることもあります。言葉を使って自分の気持ちを十分に表現しきれない子どもたちの喜怒哀楽の感情を、押し図り、受け止め、映し返すことは、自己の感情や心のありようを学び、自己理解や他者理解を深めるために、大切な役割を担っています。

ある保育園で参観させていただいた光景です。ハサミを使って紙を切る場面で、子どもたちは、器用にハ

サミを操りながら課題の形を切り抜いていきます。当然速い遅いという差が出ます。先生は、全員が切り終わるまで、次の活動に入ることを待ちます。しかし、待つ間に、子どもたちは、次の活動に思いを馳せるより、切り抜かれた紙の切れ端の形のおもしろさに心動かされ、口々にその印象を「たこだ」「いかだ」「いやや宇宙人に似ている」だのと話し始め、共感の輪が広がります。不用品な紙としてごみ箱に捨てて終わる活動の流れの中で、意図してその時間を大切にした先生は、子どもたちの感じる言葉を丁寧に拾っておりました。子どもたちが、何に心が動くかを予測しながら保育をしている先生の姿から、子どもたちの揺れ動く「感動」や「感情」を、掘り起こすことの大切さを改めて学ばせていただきました。

子どもたちは、毎日の生活の中で、たくさん感情や情緒を表現します。それを、保育士が、子どもの豊かな心の成長を願うが故に、受け取り、位置づけ、育てる、そして広げられるかは、自らの感覚や感性を持つことによります。安定した生活を育てる保育を更に、志向したいと願うものです。「春を持ってきたね」の一言はそのことを教えてくれます。

子どもの心を揺さぶる保育

諏訪保健福祉事務所 保育専門相談員 樋口 和津子

保育専門相談員として、保育園を訪問させていただいて三年目になり、諏訪六市町村、五十八園を訪問しています。多くの保育園で、子どもが遊びや活動にはまりこみ、自分の思いを出して伸びようとしている姿に出会いました。そこには人的環境としての保育士の存在が大きいことを実感しています。

今年は、七年に一度の諏訪大社御柱祭の年です。四月入園式の翌日、四月二日から上社の山出しが始まり、下社の山出し、五月に里曳きがありました。諏訪大社上社下社の御柱が終わっても、各地区の小宮の御柱がこれから秋までずっと続きます。

諏訪地域の熱気は保育園でも感じられ、保護者会と一緒に、御柱まつりをする保育園も多数あると聞いています。保護者だけでなく、「保育園の御柱、俺が見立ててきてやるで」と、園長先生に声をかけて下さる地域の方もいらつしやるのか。

五月に訪問したA保育園の二歳児クラスでは、『御柱遊び』をしていま

した。キャスター付の台車に、V字のメドテコをつけたメートルほどの御柱。綱ならぬ紐を引いたり、御柱にまたがっておんべを振ったり、口ベースでラッパ隊のメロディーを歌ったり。保育士も法被を着て、「ヨイサ、ヨイサ」と掛け声をかけていました。保育士と目が合うと、子ども達の「ヨイサ」の声も大きくなりました。御柱祭が終わったあと、遊びながらラッパのメロディーを歌っている子どもがおり、おんべやラッパにも興味を示したので、小道具も作ったらみんなすっかりはまり、役割を分担しながら御柱祭を楽しんでいるとのことでした。ミニ御柱は地域の方にいただいたそうです。保育士も子どもも地域に育てられているなあと思いました。

子どもの心を動かす

前日行った遠足の絵を描こうという時間を見せていただいた時のことです。自分と友だちを一人描き、B君は「先生できた!」と保育士に声をかけました。保育士は「〇〇ちゃ

んと遊んだんだね。楽しそうな顔しているね。虫取りしたんだね」と話をしながら、名前を書いていきました。B君は、「あ、そうだ。ちょうちよを描く」と言い、もう一度画用紙を自分の方に向けて、描き始めました。結局、友だちと二人だけだった絵が、ちょうちよや花や木、他の友だちなど、明るい公園の風景に変わりました。遠足でB君が遊んでいた様子を見ていた保育士が、B君の絵から楽しさのポイントを見つけてあげたことで、B君は遊びの光景、驚きやうれしさを具体的に引き出せたのです。

子どもたちのちょっとした仕草や言動から、子どもの思いを受け止めて、やりたい思いをできるだけ受け入れてあげる。子どもの心が動き出すのはこのような時なのでしょう。

学びを促す環境

食育を進めているC保育園では、夏の終わりに園の畑に大根の種を蒔きました。年長が中心になり、水やりをしたり草をとったりしていました。だんだん大きくなってきた頃、畑に行くと、大根の中に、明らかに違う葉っぱが生えていました。子ども達は「大根じゃない」「キャベツかレタスかな?」「キャベツじゃない。白菜かな?」とつぶやき合っていました。

実は、大根の種を蒔く時に保育士が白菜の種を紛れ込ませておいたのです。抜いてしまおうという意見もあった中で、もうちょっと様子をみようということにまとり、謎の植物の正体をつきとめようと動き始めました。家の人に聞いてみる、本で調べるなど子どもなりの追究を始めたのです。保育士は、春から畑に行き、積極的に世話をしてきた子どもたちの気づきや学びを信じて、待ちの姿勢をとっていました。白菜とキャベツの見分け方として、葉っぱの形や、切ってみればわかるという意見、切った時の音を聞けばわかるなど子どもらしい考えが出されました。収穫の時にも、白菜であると決定できなかった子どもたちですが、白菜とキャベツが給食に出た時に、実際の野菜を見ることが、解決することができました。畑の活動をする中で、驚きや発見がある時には、子ども同士で気づきを共有したり疑問を解決したりする力もついてきていました。

このように保育士の見守りや環境設定の中で、友だちと関わりながら自分の世界を広げていくことが学びにつながるのではないかと思います。

ポポちゃん畑のマイ野菜

御代田町 たんぽぽ保育園 園長 土 屋 美恵子

たんぽぽ保育園は、認可保育園となつて十二年目。そして、平成二十一年には「社会福祉法人 蒲公英」として法人格を頂いた未満児保育園です。0歳児・一歳児・二歳児各一クラスずつで、定員三十名の小さな保育園ですが、周りは大きな自然に囲まれていて、緑豊かな所です。

歩いて四十分程で帰ってこられるお散歩コースには、カモが泳ぐ雪窓湖。遊具やグラウンドがあり、桜の季節にはお花見が楽しめる雪窓公園。新幹線がちょっとだけ見えて、すぐにトンネルに隠れてしまう新幹線コース。運動会にも使わせて頂いている芝生広場と、秋になると落葉が沢山あつて歩くとカサカサと音がするのを楽しむ落葉コース。それと、地域の老人会の方々に協力して頂いて作っているお花畑迷路等があります。

後のおじいちゃん達のみごとな欝さばきで、あつという間に畝を作り、おばあちゃん達と子ども達が苗を植えていきます。たっぷりの水をあげて終了です。ちようど子ども達の背丈くらいになつて花が咲いた頃、みんなと一緒に遊びます。迷路の中を走る子ども達の後から「まあ早くて。」と言いながら追いかけるその顔はとっても嬉しそうです。まだ歩かない子を大事そうに抱っこして頂いたり、周り中に笑い声が響き渡り、ほのぼのとした時間を過ごします。

こうして自然や地域の方々に恵まれ、大切にされて、子ども達は沢山の経験をしています。

そして、保育理念の一つでもある「園の畑で旬の野菜作りをし、食育に生かします」という事で「ポポちゃん畑」で野菜を作っています。四月下旬には二歳児がじゃが芋を植えました。「ここに置いてね。」と指を指された所に一つずつ置いていきました。時々芽を取っている子もいましたが、今は植えた所から葉っぱが

出ています。

また、「マイ野菜」と言つて、二歳児の親子でさつま芋とミニトマトの苗を植えます。さつま芋の苗は園で用意しますが、ミニトマトの苗は各家庭で一苗用意して頂いています。今は沢山の種類のミニトマトがありますが、どんな物でもいいので、子どもさんと一緒に「どれにする？黄色？それとも赤いの？」「あいこちゃんがいいかなあ。」などと相談しながら選んで頂いたのを持って来て、一緒に植えます。子ども達はシャベルで穴を掘ったり、植えた所



をちよつとへこませると、水がたまりやすくなる事を教えてもらいながら、賑やかに作業をし、ジョーロでたっぷりとお水をあげて終了です。さつま芋は一人三苗。斜めに植えて葉っぱの下にワラを敷き、お水をあげます。最後に、さつま芋もミニトマトも自分の物だとわかるように、名前と絵を描いたプレートに苗の横に立てるのですが、お父さん、お母さんの絵が上手なものには驚かされます。一目で自分の物がどこにあるのかわかります。それから、根が付くまで畑に大きな水入りのバケツとジョーロを用意しておき、毎朝夕方方に水をあげたり、ミニトマトの横芽が出たら取ったりと、手を入れながら成長を楽しみます。実が生り、色がついて食べ頃になったら収穫です。その場で食べたり、家に持ち帰ってもいいです。苦手だったけど自分で育てたら食べられるようになった、食卓の会話が弾んだ等の様子を聞くと嬉しくなったり、小さくても挑戦してみる事の大切さを思い知らされる時です。今年ももうすぐ苗植えます。プレートも出来上がつてお部屋に並べられ、畑への出番を待っているようです。植えてから収穫まで、どんな物語ができるのか楽しみにしています。

次世代を担う子どもたちの

遊びの中から学ぶ保育

伊那市 高遠保育園 副園長 池 上 香 織

伊那市では、それぞれの保育園の特色を活かしながら、「遊びの中から学ぶ保育」を行っています。

広々とした園庭、園周辺の自然の中で自ら自然と関わりながら遊ぶ中で学びや、人と関わりの中での学びを大切にしながら「生きる力のある子どもを育む」を目標にした保育に取り組んでいます。

子どもたちが自ら、人、自然、物と総合的に関わる中で「面白がる」「不思議がる」「試してみたら」「知れたがる」「聞きたがる」など全てに興味を示す子どもたちを伊那市では「ががるっ子」と呼んでいます。

また各保育園の園庭の木々の中で、子どもたちの遊びや生活に欠かせない木を一本選び「シンボルツリー」と定め、観察、自然探検、四季を感じる体験を通して、子どもの感性、知性、意欲を引出し、生涯に繋がる生きる力を育もうと考えています。

近隣町村の合併に伴い、平成十八年に「伊那市の保育を考える」プロ

ジェクト委員会が立ち上がり、「保育の充実、保育士の資質向上を保育士自身で考え実践する」を目的とし保育の専門職として子どもを取り巻く現状を把握し、子どもにとって何が必要かどんな保育が望ましいか等具体的な取り組みを検討、実践し、地域の方や保護者向けに、保育園の今を聞いていただく保育発表会をここ六年間開催してきました。保育発表会での一部を御紹介します。

事例「ザクロの木と子どもたち」

子どもたちは、園の隅にあるザクロの木と一緒に季節の遊びを楽しんでいます。春先に蕾が付き始めると年少児が「これ、タコさんウインナーみたいだね」と並べ始めたのを見て保育士も「確かに似ているな」と思いました。ザクロの蕾を集めるだけでしたが、空容器を用意すると、ケーキやお弁当の具材に形を変え、石鹸を使つての泡あそびにも、蕾を使い子どもたちの見立ててでいろいろなものに変身する魅力的な素材です。ザクロの蕾一つから「遊びた

る」「採りたがる」「試してみたら」と様々な「ががるっ子」の姿が見られました。木からもらえる自然物を自分なりのイメージで描きます。

夏になるとザクロの木は青々と茂っていきます。地面や葉っぱのうらにセミの抜け殻を見つけ集め始めました。すると他児が木に止まっている羽化したばかりの白いセミを見つけた。「すごい」「なになに」とその様子を年長年中児も一緒に観察をしました。いつもとは違う色、形のセミに驚き興味を持ち、抜け殻は動かないので抵抗なく触ることが出来「集めたがる」「不思議がる」。

また動かない抜け殻を見て、驚きと不思議さを感じた子どもたち。そして羽化したてのセミを偶然発見したことによりセミの成長の様子を知り、命の大切さも学ぶことも出来ました。

秋になるとザクロの実が割れ始め収穫を楽しむに待ちます。「先生採って」と言うので「今日は自分で採るか挑戦してみようか」と話してみたところ「無理だよ」と年中児。

そこへ年長児が「私が採ってあげる」とザクロの木の横にある登り棒からスルスルッと登ると採ってくれ、皆で分けてくれました。「やりたがる」「試してみたら」姿と共に異

年齢の関わりの中でやってもらってうれしい、人の役に立ててうれしいという体験は幼児期に大切な経験です。

一本の木と仲良しになり、登ることとは勿論のこと、子どもの発想、考え、保育士の工夫一つで五感を使つた様々な遊びが出来ると共に、四季を通して沢山の学びを子どもたちはしていると感じました。

私たち保育士は色々な場面での瞬間を見逃さず体験が深まるように子どもの願いを持ち、見とりを高めていくことが必要であると感じ今後もし引き続き取り組んでいきたいと思ひます。



「子どもを見る目を育てよう」

「エピソード記述への取り組み」

松本市 あがた保育園 主任保育士 黒田陽子

松本市の保育園・幼稚園では、子どもを見る目を育て、保育の質の向上を目指して各種研修会や、公開保育での研究会の中で、エピソード記述について学び合う場を設定しています。エピソード記述とは、子ども同士、または子どもと保育者のかわり、やりとりの中で、お互いの心に触れたり、子どもの心情を読み取ったりしたことを、「背景」「内容」「考察」という形で記述して、子どもの心の動きや成長を職員間で共有したり、保育に活かしたりするためのものであるとされています。

市の公立の保育園・幼稚園の主任保育士・主任教諭で構成される主任研究会でも、四年前からこのエピソード記述について学び合うようになりしました。書き手の思いや捉えた子どもの姿が「内容」＝エピソードとなり、読み手へのメッセージとなります。そして、そこに書かれるエピソードは、その保育者の子どもに對する思いや、「今、この子はこう思っているのではないかな?」「だから、こう言葉をかけてみよう。」「言葉がけによって、こんな反応をした。」というような、お互いの心の動きが目に見えるものでなくてはならないと学びました。「エピソード記述」と言われると、難しいと感じてしましますが、学んでいくうちに、普段の保育の中で保育者が「いつもしていること」だと思えるようになりました。楽しい事でも、してほしくない事でも、何かが起こった時、「この子は、こういう気持ちでいたんだろう。」「今、こうして欲しいと思っているに違いない。」など、言葉にならない子どもの内面を探り、理解し、言葉をかけていると思います。その一場面を記述したものがエピソードであり、子どもを見る目、捉える力を育てるものだと思います。この学びを自分たちの園でも活かすため、研究保育や期案検討の際、抽出席のエピソードを資料に記載したり、子ども同士のかかわりや子どもの姿から、研究会での話し合いを行った

り、毎月のクラスだよりで、家庭に知らせたいエピソードを記載したりするようにしました。特に、クラスだよりに子どもたちの姿ややりとりの様子、心身ともに成長を感じる場面を、エピソードという形で記載することで、エピソードを書くことが身近になり、保育者の意識も高まってきました。また、園だよりの中でも、園長先生が担任と子どもたちのやりとりのエピソードを書いたり、給食の先生が給食室から見たエピソードを書いたりしています。保護者が目にするのができない保育園での子どもの様子を具体的に伝え、保育者の子どもや保育に對する思いを家庭に発信していくことで、保護者に安心してもらうこと、同じ方向を向いて子育てを考え合ったりすることにも繋がっています。クラスだよりや、園だよりを読んだ保護者の感想が園に届くこともあり、保育者の励みになっています。子どもを見る目、捉える力は、保育者の感性や経験によっても違いますが、エピソード記述への取り組みを通して、保育者の感じる心、子どもを見る目も成長していると思います。今後も、子どもたちの素敵なかかわりの場面、成長を感じる場面を職員間で共有し、保護者にも、たくさん伝えて行きたいと思っています。

クラスだよりに記載したエピソードより(5歳児)

「教えてあげればいいのに…。」～夏まつりの景品作りをしている時～

折り紙でメダルを作っていたAちゃん。途中で分からなくなってしまう涙が…。向かいに座ってコマを作っていたBちゃんとCちゃんは、Aちゃんが泣いていることは当然分かっていましたが、今は違う物を作っているから…と思ったのか、声をかける様子は無し。担任が声をかけようと近寄って行くと、隣のグループのDくんが、BちゃんとCちゃんにそっと近づいて、「泣いてるんだから、教えてあげればいいのに。」と一言。BちゃんとCちゃんは、ちょっぴりきまりが悪そう。結局Dくんが手伝ってくれて、Aちゃんはまたやる気になりました。友だちの様子を見て、困っているんだなと感じて声をかけたDくんの姿が嬉しく、BちゃんとCちゃん、そして周りで見えていた子どもたちは、次に同じような場面に遭遇した時は、きっとDくんのように行動できるのではないかな…と感じました。

ひまわり保育園のはじめの一步！

ひまわりチャレンジャーの活動を通して

中野市 ひまわり保育園 園長 山崎 まゆみ

新園建設のために1年間の仮園舎での生活を経て、昨年4月、園名も新たに「ひまわり保育園」がスタートしました。園名が決まった頃から子どもたちは新園舎を「ひまわりさん」と呼んで完成を心待ちにし、入園式では、どこもかしこもピカピカの園舎に、少しの緊張と不安を抱えながらも、子どもたちも保育士も心弾ませていたのを思い出します。

そして、そんな子どもたちの弾む気持ちを受けて、新園に新たな保育の息吹を吹き込もうと、「ひまわりチャレンジャー 仲間といっしょにミッションクアリー」のテーマ活動を設定しました。このテーマ活動では子どもたちが主体となることを願い、園内が一つになって新しいことに挑戦し、そこから生まれた楽しさ嬉しさをみんなで分かち合う1年にしたいと考えました。

最初のミッションは、園名になったひまわりの花をみんなの力で咲かせること！ 5月中旬、園庭に集う子どもたちの前に突然現れたブ

ラックフラワー（子どもたちのチャレンジ精神を目覚めさせてくれる人物？）の投げかけからでした。園庭サーキットでウォーミングアップした後、早速種まき作業にとりかかりました。年長さんは事前に硬い土を指先を使ってほぐしポットに入れて準備しておき、この日は入園間もない年少さんの手を繋いで土に指で穴をあけてあげると、年少さんがや

と摘んだ種を入れ、一緒にそつと土をかぶせました。そこに、年中さんが砂場のジョロ、カップなどに水を入れて運び、未満児さんも保育士と一緒に大きい人たちの様子を興味深く見守りながら、子どもたちの自発的な姿が随所に見られた種まきミッションは終了となりました。自分たちの手でできる作業に取り組んだことで、5日後に芽が出た時の感動はすぐに園全体のものになり、ここで感じたミッションのわくわく感がその後の苗の植え付けや根付くまでの地道な水やり作業への意欲に繋がっていきました。やがて、栄養の乏し

いフェンス沿いにでしたが、ひまわりの生命力とチャレンジャーたちの熱い思いが通じて、みごとに子どもたちが見上げるほどの大輪のひまわりが咲き誇り、猛暑の夏の間ずっと子どもたちのプールあそびを見守っていてくれました。そして、この花づくりのミッションは秋の種とりあそびや制作活動へと発展していきました。



もう一つのミッションは偶然に保護者さんから届いたカブトムシの幼虫との出会いからでした。さっそく、園庭北側の涼しい場所にカブトムシコーナーを設け、この飼育活動から様々なことに興味をもち、見つめ、生命あるもののパワーを感じとってほしいと願いました。しかし、その成長過程は想像以上のもので、途中で息絶えてゆく幼虫を見つめながら、8月初めに70匹をこえる立派に成虫となったカブトムシを近くの神社の樺の木に放してあげた瞬

間は、生命の神秘さに子どもたちも保育士も共に感動し、こうした体験活動を保育に位置づけてゆく意義に気づくことができました。

春から夏にかけての2つのミッション活動を通じて、子どもたちに自らがやってみようとする育ちの姿がみられるようになり、園全体での共感、後半、異年齢の関わりを深いものにして、卒園のころにはチャレンジャーのリーダーとして活躍してきた年長さんが、年中さんにパワーブレス（リーダーの印）を譲り渡すといったシーンがみられました。

こうして一步を踏み出したひまわり保育園ですが、チャレンジ精神を引き継いだ子どもたちは、今年さらにホップ・ステップ・ジャンプの年にしてようと畑づくりは自分たちの手で土を耕すところから挑戦が始まっています。そして、保育士はそんな子どもたちの心を満たす環境づくりが大切であることを実感し、これから様々な環境設定に取り組んでいきたいと考えています。



郡 市 別 保 育 所 数 等 の 推 移

平成 28 年 4 月 1 日

郡・市 保育協会	26 年 4 月				27 年 4 月				28 年 4 月			
	市町村数	保育所数			市町村数	保育所数			市町村数	保育所数		
		計	公立	私立		計	公立	私立		計	公立	私立
南 佐 久 郡	6	10	10	0	6	10	10	0	6	9	9	0
北 佐 久 郡	3	8	7	1	3	8	7	1	3	8	7	1
小 県 郡	2	4	4	0	2	3	3	0	2	3	3	0
諏 訪 郡	3	9	9	0	3	9	9	0	3	9	9	0
上 伊 那 郡	6	28	28	0	6	27	27	0	6	27	27	0
下 伊 那 郡	13	32	31	1	13	32	31	1	13	31	30	1
木 曾 郡	6	11	11	0	6	11	11	0	6	11	11	0
東 筑 摩 郡	5	7	7	0	5	6	6	0	5	6	6	0
北 安 曇 郡	4	6	6	0	4	6	6	0	4	6	6	0
上 高 井 郡	2	4	3	1	2	3	3	0	2	3	3	0
北 信 濃 県	4	8	8	0	4	8	8	0	4	8	8	0
上 水 内 郡	3	9	9	0	3	9	9	0	3	9	9	0
郡 計	57	136	133	3	57	132	130	2	57	130	128	2
長 野 市 (公)	1	34	34	0	1	34	34	0	1	33	33	0
〃 (私)		44	0	44		44	0	44		45	0	45
松 本 市	1	49	43	6	1	49	43	6	1	50	43	7
上 田 市	1	43	33	10	1	43	33	10	1	42	32	10
岡 谷 市	1	16	14	2	1	16	14	2	1	16	14	2
飯 田 市	1	34	19	15	1	34	18	16	1	34	18	16
諏 訪 市	1	16	14	2	1	15	13	2	1	15	13	2
須 坂 市	1	15	10	5	1	15	10	5	1	15	10	5
小 諸 市	1	9	7	2	1	9	7	2	1	9	7	2
伊 那 市	1	22	20	2	1	22	20	2	1	21	19	2
駒 ヶ 根 市	1	12	10	2	1	12	10	2	1	12	10	2
中 野 市	1	12	11	1	1	12	11	1	1	12	11	1
大 町 市	1	8	8	0	1	8	8	0	1	8	8	0
飯 山 市	1	10	9	1	1	10	9	1	1	10	9	1
茅 野 市	1	17	15	2	1	18	15	3	1	18	15	3
塩 尻 市	1	17	15	2	1	17	15	2	1	17	15	2
ち く ま 市	2	21	17	4	2	21	17	4	2	21	17	4
佐 久 市	1	28	19	9	1	28	19	9	1	28	19	9
東 御 市	1	6	5	1	1	6	5	1	1	6	5	1
安 曇 野 市	1	19	18	1	1	19	18	1	1	19	18	1
市 計	20	432	321	111	20	432	319	113	20	431	316	115
合 計	77	568	454	114	77	564	449	115	77	561	444	117
25 年 度	77	573	460	113	(注) 市町村数は、保育所が存在する市町村 保育所数は、保育園連盟加入施設数 *ちくま保育協会には、坂城町が含まれています							
24 年 度	77	581	470	111								
23 年 度	77	583	474	109								
22 年 度	77	597	488	109								
21 年 度	79	604	493	111								

編 集 後 記

今年もまた、私達の保育園に、つばめがやってきました。保育園のテラスは、つばめ達のおしゃべりで、とても賑やかです。「今年も、ここにしようよ。」などと、巣作りの相談でもしているのでしょいか。早速、可愛らしい子育てが始まりました。

今年も変わらない風景に、幸せを感じる日々ですが、熊本県では、地震により帰る家を失い、今もって、避難所生活をしている多くの方がいらっしやいます。心よりお見舞い申し上げます。

さて、保育の現場は相変わらず、保育士不足、子どもの貧困、都市部における待機児童問題など大きな課題が山積みです。また、多様なニーズに応えようとする余りに、「子どもの最善の利益」が薄れてしまうのではないかと思う時があります。時々立ち止まり、考えていかななくてはなりません。

もうすぐ、夏本番。平穏な生活のなかで、子ども達が、のびのびと遊べる夏でありますようにと願います。

(広報委員 古畑 由実子)